

# 早期8両化 通学定期代引き下げ

# さらなる TX 充実を

8月21日、日本共産党千葉県地方議員団は、つくばエクスプレス（TX）のさらなる充実を求め、TXを運営する首都圏新都市鉄道株式会社へ要請書を提出しました。

## 「通学定期代の割引拡大含め 子育て支援策を検討」約束



首都圏新都市鉄道へ要請書を手渡す日本共産党千葉県地方議員団（左から2番目小田桐たかし流山市議）

「高すぎる通学定期代を引き下げてほしい」、「高校に一番近い駅はTX。でも通学定期が高く、利用できない。東武鉄道の駅から30分かけ、自転車通学をしている」：高校生や保護者の声を日本共産党は伝えました。

鉄道事業者は「通学定期代の割引拡大を含め、多方面から子育て支援策を検討する」と約束しました。

## 8両化!! 早期実現へー 「快速停車駅等のみ8両化」技術的検討を

日本共産党の要請に対し、鉄道事業者は「『2030年代前半の8両化』という会社方針は堅持する」と約束。しかし、その工期スケジュールの明言を避けました。

一方、8両化未対応ホームが13駅も残されている到達を踏まえ、日本共産党は全駅8両化対応にとどまらず、技術的な精査を充分したうえで、「快速駅（停車駅10駅）のうち8両化実施駅6駅」や通勤快速駅（停車駅13駅）を優先的に8両化対応ホームとし、「快速・通勤快速は8両化」で早期実現ができる」と提案しました。



日本共産党 流山市議会議員

## おだぎりたかし

願採  
請採

# 加齢性難聴者への補聴器購入助成

「年だから仕方がない…」とあきらめていた方やご家族に朗報です。市民団体が提出した「補聴器購入助成を求める請願」が市議会全会一致で採択されました。6月26日、議会最終日に行った日本共産党市議団のいぬいえり議員の請願賛成討論は以下の通りです。

本請願は、流山市に対し、高齢者の補聴器購入費助成を求めるものです。

来年2025年には、高齢者の5人に1人が認知症になるといわれています。流山市では、令和5年度で介護認定を受けている高齢者の約半分、4300人に認知機能の低下があると診断され、これは高齢者全体の1割に相当し、診断を受けていない人もいることを考慮すればさらに多くの認知症高齢者がいると考えられます。これは大変衝撃的な数字です。いっぽう、本市の高齢者実態調査では、高齢者の4人に1人が聞こえに困りごとを抱え、そのうち約6割が特に対応していないとの結果が出ています。

高齢者の難聴は、厚労省も「生活障害になるのみならず、認知症発症の危険因子の一つと報告されており、難聴高齢者の早期発見や適切な介入に向けた仕組みの構築が求められる」としています。市は聞こえに困りごとを抱える高齢者に医療機関の受診の啓蒙をすすめることが市の役割とされていますが、医療機関にかかれば補聴器の装着をすすめられる場合が多く想定されます。しかし高額のため多くの高齢者が購入を躊躇しています。

日本国内の補聴器購入助成制度実施自治体は2023年6月時点の152自治体から、同年12月で237自治体と、半年の間に1.5倍にも増えています。千葉県内の実施自治体は54市町村中、船橋・鎌ヶ谷・

浦安・印西・市川・富里の6市で、助成限度額は2万から3.5万円、予算は100人から1500人規模です。例えば1人5万円の助成を100人分としても、本市の予算規模からすれば0.006%にあがりません。

本市議会では、国に対し、これまで2回、補聴器の購入助成制度の創設を求める意見書を可決してきました。令和5年第1回定例会では全会一致で可決しており、助成制度の必要性については、議会では異論がありません。

健康体操で筋肉は鍛えられても、耳は鍛えられません。総合計画に「いきがいをもって健康・長寿に暮らせるまち」をかかげる本市として、ぜひとも高齢者の補聴器購入費助成を実施すべきと考えます。

最後に、市民から寄せられた声を紹介します。「主人も聞こえづらくなり、はじめは嫌がっていた耳鼻科にも一緒に受診し、補聴器も娘からの援助もあり購入しました。はじめはイヤイヤつけていましたが、家族やご近所さんとも楽しくお話ししている姿を見られてホッとしています。孫との会話も楽しみにし、表情も明るくなって、本当に良かったです。公費補助ができ、少しでも補聴器の購入のハードルが下がり、また『聞こえづらさ』は年齢だからしょうがないで放置せず、本人も、家族も、ご近所でも、何かのきっかけになればうれしい」とのことです。こういう声にこたえましょう。

以上、賛成討論といたします。